

(社) 日本船舶海洋工学会関西支部・関西船舶海洋流体力学研究会
シンポジウムー海洋観測・計測技術の現状と展望ー

海洋の観測・計測技術は、海洋におけるあらゆる活動の基礎となります。現在世界中で進められている温室効果ガス大幅削減の施策と、いよいよ具現化し始めた世界的な水・食料・金属資源・エネルギー資源の需給バランスの崩れは、今後の海洋産業に大きなインパクトを与えることとなり、それに伴って海洋観測・計測技術の重要性もますます高くなると思われます。そこで(社)日本船舶海洋工学会関西支部と関西船舶流体力学研究会(KFR)は、地球規模の海洋観測からごく沿岸域の海洋計測まで、様々な分野の海洋観測・計測技術の先端的な取り組みを学ぶとともに、今後の海洋観測・計測技術の展望を探ることを目的として、「シンポジウムー海洋観測・計測技術の現状と展望ー」の開催を企画いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

□主催：(社)日本船舶海洋工学会関西支部・関西船舶流体力学研究会(KFR)

□日時：2009年2月6日(金) 13:00~19:30

□場所：大阪府立大学学術交流会館(別紙地図参照)

□プログラム：

13:00-13:10 開会あいさつ(趣旨説明) 大塚耕司(大阪府立大学大学院)

13:10-13:50 「人工衛星による海洋観測」今井康貴(佐賀大学海洋エネルギー研究センター)

13:50-14:30 「海底地形および海底下計測技術」澤 隆雄(独)海洋研究開発機構)

14:30-15:10 「ブイによる波浪計測技術」麻生裕司(株)ゼニライトブイ)

15:10-15:30 休憩

15:30-16:10 「分光スペクトル画像を用いた物質濃度分布計測」中谷直樹(大阪府立大学大学院)

16:10-16:50 「栄養塩計測技術」新井 励(大阪府立大学大学院)

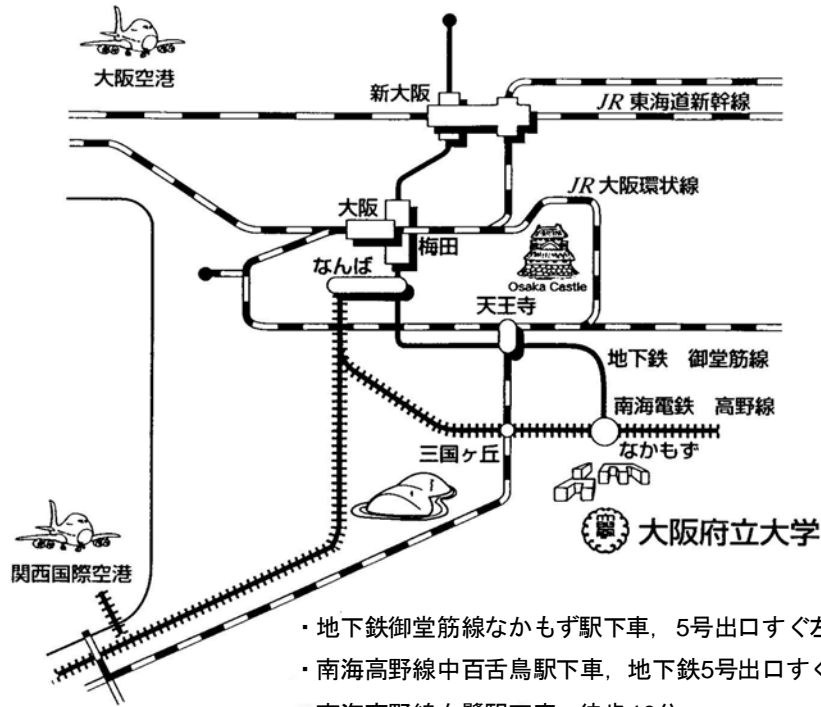
16:50-17:30 「可視化計測技術」西尾 茂(神戸大学大学院)

17:30-17:40 閉会あいさつ(まとめ) 仁瓶寛太(川崎重工業(株))

17:45-19:30 交流会

□交流会費：一般 4,000 円/人, 学生 2,000 円/人(当日会場にて徴収します)

大阪府立大学 学術交流会館



- ・地下鉄御堂筋線なかもず駅下車，5号出口すぐ左折，徒歩20分
- ・南海高野線中百舌鳥駅下車，地下鉄5号出口すぐ左折，徒歩20分
- ・南海高野線白鷺駅下車，徒歩10分
- ・JR阪和線三国ヶ丘駅より南海バス（北野田，福町方面行き）
府立大学前下車，徒歩5分

